

令和5年第1回浦幌町議会定例会 一般質問通告一覧表

1番 安藤 忠司 議員

○災害時の協力協定書

2番 河内 富喜 議員

○眼軸近視など眼の健康に対する教育的配慮

3番 高橋 匠 議員

○4年間の総括

4番 伊藤 光一 議員

○学力調査の公表内容、通学カバンの重さ、制服等の改定

5番 森 秀幸 議員

○模範牧場の管理状況

6番 沼尾 昌也 議員

○稼ぐ産業の確立

○4年間の総括

7番 栗山 博文 議員

○浦幌町の産業振興

令和5年 2月24日

午前・午後11時20分

項目ごと・一括

令和 5年 2月24日

浦幌町議会議長 田村寛邦様

浦幌町議会議員 安藤忠司

一般質問通告書

浦幌町議会会議規則第61条第2項の規定により、次のように通告します。

記

項目	要 旨 (内 容)
災害時の協力協定書	<p>平成29年10月に本別町と災害時の協力に関する協定書を締結したが、締結時には新聞報道もあり、協定を締結したという事実については、町民も承知していると思われる。</p> <p>災害はいつ発生するか想定できない。協定締結後5年経過し、締結内容の詳細について再度点検と確認が必要であると考えことから次の3点について伺いたい。</p> <ol style="list-style-type: none">1 締結後、浦幌町の町民に対してどのように周知しているのか。2 協定書には、避難所と避難場所が5カ所指定されているが、実際のこれら施設の運用に関し施設管理者とはどのように協議しているのか。3 今後このことについて、対象となる上浦幌地区住民に対して実際の運用に即した説明会等を開催する考えはないか。

令和5年 2月24日

午前・午後11時40分

項目ごと・一括

令和 5年 2月24日

浦幌町議会議長 田村寛邦様

浦幌町議会議員 河内富喜

一般質問通告書

浦幌町議会会議規則第61条第2項の規定により、次のように通告します。

記

項目	要旨(内容)
眼軸近視など眼の健康に対する教育的配慮	<p>子どもの視力低下が問題になっている。コロナ禍も影響していることも考えられるが、自宅でスマートフォンやゲーム機を使用する頻度が高まっていること、また教育環境の変化で一人一台タブレット端末の普及やICTにより子どもの視力環境はより厳しい状況にある。</p> <p>文部科学省も近年、子どもの視力低下、近視問題について調査に着手している。2019年の文部科学省の学校調査によると、裸眼視力1.0未満の小学生は34.57%、調査を開始した40年前の2倍である。また裸眼視力0.3未満は9.38%と全体の1割を占める。</p> <p>眼軸近視は治らないため、成長期に伸びた眼軸長は短くならないと言われていています。近視の原因の中で遺伝的な要因もありますが、環境原因が大きく作用すると言われていています。</p> <p>日本人の眼軸長の長さは、成人で24ミリですが、これを上回り伸びると、屈折力のバランスが崩れ、網膜の手前でピントが合うようになり近視になると言われています。</p>

またその後近視が進むと、網膜や視神経が引き伸ばされて傷つき、網膜剥離や緑内障など最悪失明に結び付く病気の危険性が指摘されています。

慶応義塾大学医学部眼科教室教授が普段生活で取り入れたい「近視予防7項目」を提案しています。

- ① 1日できるだけ外で遊ぶ（理想は2時間）
- ② 学校の遊び時間はできるだけ外で遊ぶ。
- ③ 本は目から30センチ以上離す。
- ④ 読書の姿勢を良くする。
- ⑤ 読書・スマホ・ゲームなどの近業を1時間したら、5～10分程度休み遠くを見たり、外に出たりリフレッシュする。
- ⑥ 規則正しい生活を心がける。
- ⑦ 定期的に眼科専門医の診察を受ける。などです。また近年、世界的に学会で注目されているのは、屋外での環境、紫外線の効果であります。そこで次のことについて、伺います。

1 子どもの外遊び・スポーツ時間は、年々減っている報告書があります。小学生では41分、中学生では17分、また「外でまったく遊ばない・スポーツしない」と答えた小学生は3割、中学生で7割ですが、屋外での環境、紫外線の健康（眼）への効果を考えた場合、同じような傾向が我が町でもあるとしたら、今後どのように対応すべきと考えますか。

2 「教育の日実践交流会」の中でもスマホ・ゲーム使用については、5つの宣言をして取り組んでいるが、これらの取り組みが眼の健康に対して有益であると考えるが、いかがお考えですか。また今後の方針について伺います。

3 眼軸近視など成長期の眼の健康に対する教育的配慮と学校生活における予防・指導に対して今後どのように対応するお考えですか。

令和5年 2月24日
午前・午後 4時50分

項目ごと・一括

令和 5年 2月24日

浦幌町議会議員 田村寛邦様

浦幌町議会議員 高橋 匠

一般質問通告書

浦幌町議会会議規則第61条第2項の規定により、次のように通告します。

記

項目	要 旨 (内 容)
4年間の総括	<p>2019年6月の議員となって初めての定例会から4年間に8回の一般質問をさせていただき、様々な答弁をいただいて参りました。これらの質問について、その後どのような議論や結論があったのか、若しくはその事業の現状について伺います。</p> <p>1 2019年6月議会での「新たな産業や雇用の創出を図るモデル事業の構築」は、本事業により創られる浦幌町の未来のイメージを伺うものでした。</p> <p>先日、「十勝うらほろ創生キャンプ活動報告会」が開かれ、報告内容を興味深くお聞きしたばかりですが、町長の開会挨拶にて触れられていた通り、内容の理解が難しいものという側面は否めません。</p> <p>そこで、改めて本事業における成果と課題を伺います。</p> <p>2 2019年12月議会での「浦幌町ふるさと納税」については、寄附額増を目的とした事業者サポートやプロモーション戦略について伺うものであり、民間事</p>

業者のノウハウを活用するという答弁をいただきました。

現在、こういった形で民間事業者のノウハウを活用した運営がなされていて、浦幌町ふるさと納税がこういった状況なのかを伺います。

- 3 2020年6月議会での「新型コロナウイルス影響下でのリスクの周知」については、コロナ禍初期に本人や家族が罹患した場合に町民がとるべき対応策について伺うものでした。

「新型コロナウイルス影響下での学習環境」については、コロナ禍での学校閉鎖等により子供たちの学習の機会が失われないよう、GIGAスクール構想を迅速に進め、ハード・ソフトの両面をどのように確立するのかを伺うものであり、早急に環境整備を進めるとの答弁をいただいております。

今年春にはコロナウイルスの感染症状の分類が5類に移行される等、アフターコロナに向けた動きが活発化してきておりますが、パンデミックはいつ起こるかわからないものであり、今回の教訓は大いに活かすべきだと考えております。

そこで、これまで進められた小中学校において子供たちが学校に来られない状況であっても、学習の機会を担保する環境整備がどのような状態かを伺います。

- 4 2020年12月議会での「浦幌町職員のキャリアプラン」は、移住促進やシティープロモーション、ふるさと納税等、他の自治体との競争や差別化が必要な業務の増加に伴い、マーケティングやプロモーション等従来の自治体業務にはなかったノウハウやスキルが求められており、そういった専門性を持つ行政職員の育成について伺うものでした。

研修のあり方や民間企業との人事交流等を検討するという答弁をいただきましたが、現状、どのような形で専門性を持つ職員の育成を行う検討がなされたのかを伺います。

- 5 2021年6月議会での「未来の浦幌町を考えた公共

施設の統廃合計画」については、人口減少や町の財政等の課題により、今ある全ての公共施設を維持するのは難しい状況の中で、「町の財政状況」「施設の利用率」「維持管理コスト」等の指標により、統廃合の基準や優先順位等の計画の有無や町民との情報共有について伺うものでした。

それに対して、公共施設等総合管理計画の基本方針の中にある、「町民と行政が情報を共有し、町民理解の下で対策を実施していく必要がある」との考え方にに基づき、検討を進めていくとの答弁をいただきました。

健康湯が今年3月に閉館される等、今後公共施設の統廃合は緩やかに進んでいくものと考えられますが、現状町民とどのように情報共有していきたいと考えているのかを伺います。

6 2021年12月議会での「浦幌町における民間事業の継続性」は、事業者の高齢化等の理由により廃業が増えてきている中で、事業承継事業等の促進や土地建物や設備の譲渡に関して伺うものであり、浦幌町中小企業経営承継事業補助金や就業チャレンジ事業を進める中で、民間事業者の持続性を担保していくとの答弁をいただきました。

現在、上記の事業を含めて民間事業者の継続に関してどのような取り組みが行われており、どういった成果があるのかを伺います。

7 2022年6月議会での「浦幌町における教育の在り方」については、コミュニティースクールやうらほろスタイル教育等「地域への愛着を育む教育」の次の段階として、子どもたちが予測することができない未来を生き抜く力を育む教育のあり方について伺い、学校教育・社会教育の連携や融合を進め、関係機関と協議検討を進めていくとの答弁をいただきました。

この中で、子どもたちが日々の学習で得たことを活用して、自ら課題を発見し解決していく探求学習をサポートする専門的なコーディネーターの配置について伺ったところ、組織的なことも含めて検討す

るとの答弁をいただきましたが、現在どのような検討や議論がなされ、方向付けがされているのかを伺います。

8 2022年12月議会での「森林公園のグランドデザイン」については、パートナー企業との連携によるショップの併設を含め、アウトドアや自然体験プログラム等のグランドデザインについて伺うものであり、令和5年度に基本計画を策定するとの答弁をいただきました。

この質問をしてから3ヶ月余りではありますが、進捗があればお教えいただきたいと思います。

令和5年 2月27日

午前・午後 8時35分

項目ごと ・ 一括

令和 5年 2月27日

浦幌町議会議長 田村寛邦様

浦幌町議会議員 伊藤光一

一般質問通告書

浦幌町議会会議規則第61条第2項の規定により、次のように通告します。

記

項目	要旨(内容)
学力調査の公表内容、通学カバンの重さ、制服等の改定	<p>今般、これまでの議会活動において議論してきた様々な内容の内、教育に関する下記の事項に関し、お伺い致します。</p> <p>1 本町の全国学力・学習状況調査の結果について 先般、本町の令和4年度の全国学力・学習状況調査の結果についての公表がなされました。 この点、令和4年2月16日、当議会の総務委員会において、「学力向上に向けた取組状況」と題して所管事務調査を行った経緯がありますが、その所管事務調査報告書において、全国学力・学習状況調査の結果公表内容について、わかりづらい点を指摘しております。 すなわち、公表された本町の全国学力・学習状況調査結果における「上記結果の考えられる要因の分析」欄には、結果の分析が記載されていますが、小学校、中学校とも記載されている複数の分析事項のすべてが「全国及び全道の平均を上回った」と記載されています。しかしながら、上部に掲載されてい</p>

る各科目の正答率のレーダーチャートは、全国及び全道の平均を上回った分野は、小学校、中学校とも14分野中1分野のみであり、レーダーチャートの内容と分析の内容に、違和感を覚えます。

全国学力・学習状況調査を公表する趣旨は、本町の子供たちの学力・学習状況を町民に広く知らせ、その情報を共有し、学習の到達度や課題を把握しながら、町全体で子供たちの教育に資するためであると考えておりますが、今回公表された全国学力・学習状況調査の内容からは、本町の子供たちの学力が全国、全道と比較してどの程度の位置にあり、子供たちの学習意識については判明するものの、今後の学力向上への課題は見えてこず、分析も的外れに感じます。

この点、所管事務調査報告書の所見においても、「学力レーダーチャートと分析事項の記載内容が一致せず、一見では理解できない部分があったことから工夫が必要」とし、また、「子どもたちの学力の良い部分だけでなく、弱い部分も公表すべきである」としているにもかかわらず、何ら改善されていないように見受けられます。

さらに、これら所管事務調査報告書にて指摘した点において、定例教育委員会の議事録等を拝見しても、教育委員会でどのような検討がなされたか否かに付、判然としません。

私は、本町における全国学力・学習状況調査の結果を公表する以上、よりわかりやすいものとし、子どもたちの学力の良い部分、弱い部分の公表を行いながら、子どもたちの学力向上に関する課題を示してこそ、意味のあるものになると考えます。

そこで、総務委員会の所管事務調査で改善を求めた事項について、教育委員会において検討を行ったのか否か、検討を行ったのであれば、どのような結論に至ったのか、お伺いします。

なお、学力向上の論点に関連して、中学3年生の浦幌活性化案発表会が、令和4年11月7日に行われておりますが、その発表日が、内申に影響する学力テストの3日前に行われた事実があり、学力テスト前の勉強に集中できなかったとの声も聞こえて

います。その点、本町の学力向上の観点からすると、実施時期について妥当であったのかどうか疑問であり、その妥当性に付どう考えるか、あわせてお伺いします。

2 通学時のカバンの重さについて

令和2年9月に行った私の一般質問において、通学時のカバンが重いのではないかと、との質問をしたところ、各校の判断において適切に対応しているとの答弁を頂きましたが、現在、中学生は、これまでの重さに加え、学校で使用するタブレットも持ち帰ることになっており、以前よりも更にカバンが重くなっているという事実があります。

タブレットを持ち帰る理由としては、新型コロナウイルス感染症による休校に対応するためであるのではないかと思慮しますが、新型コロナウイルスの感染症法上の位置づけが、近々5類相当になる時期においても、タブレットの持ち帰りを必要とする必然性は乏しいのではないかと考えますが、その点に付、どのように考えるか、お伺いします。

3 制服、指定ジャージについて

私が令和4年12月の議会にて、議論したジェンダーレスの考え方においては、社会的・文化的に性別の区別がない考え方であり、その観点からあらためて考えてみると、本町中学生の制服についても、一考する必要があると考えます。

すなわち、本町中学校において、男子は、詰襟学生服、女子はブレザー及びスカートであり、仮にトランスジェンダーの生徒がいた場合には、精神的負担を課している可能性が容易に想像されます。

また、本町中学校の制服、指定ジャージにおいては、何十年も変更されていないとお聞きしており、そうであるならば、この際、制服及び指定ジャージの改定の検討がなされるべきではないでしょうか。

菅公学生服株式会社の「ジェンダーレス制服の導入背景に関する調査データ」によるアンケート結果においては、小中高校の「LGBTQ」の生徒・児童への配慮について、「服装による配慮をしている」、「今

は服装による配慮はしていないが、今後予定している」をあわせ、約6割の学校でなんらかの服装の配慮を導入・検討中と回答している状況も鑑みると、時代はジェンダーレス制服に移行しつつあります。

本町としても、①長年に渡って、制服、指定ジャージの改定がなされておらず、デザインや素材が時代にそぐわない点が多々あること、②様々な生地素材や加工の進化により、現在はより快適な制服、指定ジャージが存在すること、③十勝管内においても、ジェンダーレス制服を採用する学校が増えてきていること、④ジェンダーレスの考え方は今後主流となり、女子にもスラックス等選択の自由を与えた方がいいこと、⑤時代にあったジェンダーレス制服の採用により、学校、ひいては本町の魅力向上につながることを鑑みると、今こそ、私は制服、及び指定ジャージの改定に着手すべきであると考えます。

なお、制服等の改定は、各学校の判断になると思慮しますが、本町は複数校あることから、各学校がバラバラに行うのではなく、教育委員会主導で行った方が効率的であり、実際、他市町村においても、教育委員会主導により行った事例も存在します。

そこで、教育委員会が主導となり、まずは、現在中学生の保護者に対して、現在の制服、指定ジャージの評価を、また、中学校に入学することになる小学生の保護者に対しては、制服、指定ジャージの改定是非に関するアンケートを取る等の意見聴取を行い、制服等の改定に向けた取組みを早急にはじめるべきであると考えますが、その点に付、どのように考えるか、お伺いします。

あわせて、制服等の改定には時間がかかると思われませんが、現時点においても、女子制服のスカートに違和感を覚えている生徒がいること、また、女子はスカートだけではなくスラックス等の選択を行える学校も増えていることを踏まえると、現在の制服においても、生徒の精神的負担の緩和のため、同系色のスラックスを認める等の配慮を行うことが、今の時代に適していると考えますが、その点に付、どのように考えるか、お伺いします。

令和5年 2月27日

午前・午後 9時50分

項目ごと ・ 一括

令和 5年 2月27日

浦幌町議会議長 田村寛邦様

浦幌町議会議員 森 秀幸

一般質問通告書

浦幌町議会会議規則第61条第2項の規定により、次のように通告します。

記

項目	要 旨 (内 容)
模範牧場の管理状況	<p>模範牧場は、家畜の預託等により畜産振興の基盤の確立を図り、もって農業経営の安定に寄与することを目的として、昭和52年から供給開始され、町が経営管理してきたところであるが、模範牧場の体制を継続するには、機能的な牧場経営のあり方など民営の考えを生かし、畜産振興を図っていく観点から平成23年1月1日より指定管理者による管理運営を開始したところである。</p> <p>管理運営にあたっては、長期的な視点に立った継続的な事業運営や人材育成、特殊なノウハウや専門性が要求されることや利用者との継続的な信頼関係を構築することが重要であることから、町の選定委員会の評価により現在の管理者になっています。</p> <p>過去、牧場の管理運営については、産業建設常任委員会を平成24年1月、同25年5月と同28年11月に開催し、管理状況・利用者からの意見、要望について審議してきたところであり、なかでも、牛の成育状況に関する管理状態には、利用者から不満の声もあることから再三にわたり所見を通して改善するように訴</p>

えてきたところではありますが、残念なことに改善が見受けられません。

このことについては、議会報告会での発言がありましたし、私自身も利用者宅を訪問し、意見を聴取させていただきました。なかには、以前よりも管理が悪化しているとの利用者の声もありました。現下、酪農家にとっては、世界経済情勢の悪化に伴い、肥料・飼料・資材等の高騰と乳量（生産）調整に危機感を持って営農に従事している状況であります。

そこで、次の項目について伺います。

- 1 下牧した牛の成育状態が標準より劣っている。また、子が入っていない牛もあると聞いている。初期の哺育期間が一番大切であるが、牛の健康管理をどのように監視観察しているのか。また、成育段階においてはどうか。
- 2 飼料の給与量は北海道農業生産技術体系に基づき定めるとされているが、規定量で給餌しているか。
- 3 管理者・利用者・行政との懇談会は、年何回開催しているのか。また、利用者との継続的な信頼関係が構築されていると考えているか。
- 4 今後の模範牧場の経営の在り方と飼養管理についての方針はどうか。
- 5 十勝太の旧牛舎の今後の利用等の計画はあるか。

令和5年 2月27日
午前・午後11時20分

項目ごと ・ 一括

令和 5年 2月27日

浦幌町議会議長 田村寛邦様

浦幌町議会議員 沼尾昌也

一般質問通告書

浦幌町議会会議規則第61条第2項の規定により、次のように通告します。

記

項目	要 旨 (内 容)
稼ぐ産業の確立	<p>人口や財政が量的に拡大し続ける時代は終え、縮小に転じた社会において、浦幌町が持続可能な町になるために、民間の力が必要であり自立して稼いでいく産業の確立が必要だと考えます。このことは、まちの今後を決めると言っても過言ではありません。</p> <p>そのため、現在も自立して稼いでいる産業を維持すること、また、新しく稼ぐ産業をつくっていくために以下の点について伺います。</p> <ol style="list-style-type: none">稼いでいる産業を維持する、新しく稼ぐ産業をつくっていくために、官民連携が必要なことは言うまでもないが、まずは、町の課題を共有し、農協、漁協、森林組合、商工会の各産業団体と共に考えていく場を町が主導的に作るべきと考えますがいかがでしょうか。稼ぐ産業の維持及び新しく稼ぐ産業をつくっていくためには、今後の町の産業を担う子どもや若者及び、産業と連携していく行政職員に経済や金融の

<p>4年間の総括</p>	<p>教育もしなければならぬと思います。2022年の4月には、高等学校の学習指導要領改訂で金融教育の拡充がなされました。2022年に金融広報中央委員会が日本の人口構成とほぼ同一の割合で収集した、18～79歳の3万人を対象にしたアンケートでは、7割以上の方が金融教育をすべきと答え、そう思わないと回答した方は1割にも達していません。</p> <p>この現状から、生きる力を育むうえで、また強い産業をつくるうえでも、経済・金融教育を町として行うべきと考えますが、どのように考えますか。</p> <p>2019年6月の定例会から4年間すべての定例会において一般質問を行い、それぞれ答弁をいただいて参りました。これらの質問についての一部ではありますが、その後どのような議論や結論があったのか若しくはその事業の現状について、以下のとおり伺います。</p> <p>1 2019年6月議会での「健全な職場環境に向けて」及び、2021年12月議会での「行政及び民間の事業所における人手不足解消」において、役場内の退職者の増加から、人材不足や技術継承ができないなどの課題をあげさせていただいた上で、庁舎内でのアンケートの実施や、特別昇給の実施、副業解禁など、様々な課題解決への提案を行わせていただきましたが、どのような状況ですか。</p> <p>2 2019年9月議会での「水道の今後の運営方針」において、安定した給水サービスを提供するために、3年から4年の中で料金の改定を行ってまいりたいと答弁をされておりましたが、どのような状況ですか。</p> <p>3 2020年の9月議会での「認定こども園開園に向けて」において、学童保育は引き続き現在の場所で行い維持管理していくと答弁がありましたが、建物の耐用年数は超えており、今後の学童保育の場所について、どのように考えていますか。</p> <p>4 2021年の6月議会での「携帯電話の電波が届かな</p>
---------------	--

	<p>い地域の解消」において、富川地区と福山地区の2地区が不感地帯になっているとの答弁でしたが、どのようになっていますか。</p>
--	---

令和5年 2月27日

午前・午後11時30分

項目ごと・一括

令和 5年 2月27日

浦幌町議会議長 田村寛邦様

浦幌町議会議員 栗山博文

一般質問通告書

浦幌町議会会議規則第61条第2項の規定により、次のように通告します。

記

項目	要 旨 (内 容)
浦幌町の産業振興	<p>令和元年第2回定例会において、一次産業の振興発展のため、業種や地区に限定することなく異業種交流を中心に、情報を共有し、新たな施策を見出すための町の考え、農林水産業等に関するイベント・収穫物や時期など、町民と共に情報を共有し活性化させていく考えはないかを一般質問しました。</p> <p>その中で、「異業種交流・意見交換は重要であるが、行政主導ではなく、つなぎ役・相談役として進められるよう、色々な意見を聞きながら考えていきたい。」という趣旨の答弁をいただきましたが、産業や浦幌町の活性化を考えれば、労働、生活、学習等、多角的に考えなければならないと思います。</p> <p>関係各所との連携をスムーズに行えるよう、協力体制の強化は必然であり、そのためにも異業種交流は大変重要であると考えます。</p> <p>そこで、以下の点を伺いたいと思います。</p> <p>1 受け身の姿勢ではなく、町主導で交流会や意見の聴取を行い、協力体制を整える考えはないか。</p>

2 経済団体等への町職員の出向や受入の交流を行う
考えはないか。